

## 令和3年が始まりました 災禍を越えて

令和3年が始まりました。生徒たちが、また学校に戻ってきてくれたことに対して、とても嬉しく思います。昨年はコロナ禍で思うようにならない1年ではありましたが、学校生活においては暗い話題ばかりではなく、本校の生徒それぞれの努力、保護者の皆様、地域の方々のご協力等で明るい光も数多く見えました。前向きな取り組みや活動が、彼らの支えになるように、教職員一同で力を尽くしていきたいと思えます。

昨日夕方に、首都圏に対して緊急事態宣言が発出されました。宮城県も感染状況が収まるどころか、悪化しています。もう一度、個々人で、ご家庭で、そして学校で、注意深く生活しながら、この難局を乗り切っていきたいと思えます。

昨日、学年代表の生徒がそれぞれ新年の抱負を述べてくれました。1年生のM・Nさん、2年生のW・K君、そして3年生のO・Mさんが、素晴らしいスピーチを全校放送で披露してくれました。下記の作文は、残りの中学校生活が少なくなった3年生の思いです。もう一度生徒、教職員、保護者の方々と共有できればと思い、Mさんの許可を得て掲載しました。

**ただただ月日だけが流れ・・・、私たちはどうすることもできず、当たり前が幸せだったと実感した・・・そして「不撓不屈」の心で**

### 新年の抱負

3年 O・M

時が過ぎるのは早く、卒業まで残り2ヶ月。3ヶ月という休校期間を経て始まった学校生活も早くも終わりを告げようとしています。突然始まった臨時休校。ただただ月日だけが流れていく中、私たちはどうすることもできず、喪失感を感じ、改めて当たり前の日々は幸せだということを実感しました。

「一期一会」おそらく誰もが一回は耳にしたことがある言葉だと思います。その機会は二度と繰り返されることはありません。休校期間があったからこそ、今を大切に、何事もかけがえのない時だと思って取り組むことの重要さを深く感じる事ができたと思えます。

そして2ヶ月後には中学校の最大の壁、受験が待っています。義務教育が終了し、私たちの将来に大きく関わってくる受験。休校期間を経て学んだことを生かし、私は「不撓不屈」という目標を掲げ、日々受験勉強に励んでいきたいと思えます。「不撓不屈」とは、強い意志をもち、どんな困難や苦勞にも負けないことという意味があります。受験勉強の中で成績が伸びず悩んだり、自由からしばらく、心が折れそうになることがあると思えます。しかしそんなときこそ、粘り強く自分の意志を持ち続け、自分の限界まで挑戦し続けたいと思っています。それでも時にはくじけそうになるときもあるかもしれません。そういうときは、共に頑張っている仲間と互いに切磋琢磨しながら前進していきたいです。また、受験だけでなく、大人への階段を一つ登る15歳という筋目の年に、社会性をしっかり身に付けていきたいです。卒業まで残り少ない日々を一日一日大切に過ごし、赤学年全員で頑張っていきたいと思います。

Mさんの決意表明に、文章では書き留めきれない心の揺れや、迷い、不安、そしてそこから新しい希望に向かって歩こうとしている強い決意が感じられます。3年生はもちろん、同じ時間を過ごし、同じ環境で生活した全学年の生徒や教職員が強く共感し共有できる文章だと感じます。この1年、失ったものもありますが、気付いたことも多くありました。東日本大震災で被災した福島県の中学校で創られた「群青」という曲の詩にMさんが文章で綴った気持ちと同じ言葉があります。

「・・・当たり前が幸せと知った・・・」 災禍を越えて、またみんなで歩きましょう。